

天地を翔ける

— 江馬氏城館跡のすべて —



『天地を翔ける ―江馬氏城館跡のすべて―』の刊行にあたって

飛驒市は、岐阜県の最北部に位置する自然豊かな町で、史跡江馬氏城館跡・名勝江馬氏館跡庭園が存在する神岡町はその北東部を構成しています。この地域は、中世は高原郷と呼ばれていました。市街地を中心として、高原川流域や街道沿いに放射状に集落が存在する、中世さながらの地域の様子を今に伝えています。

江馬氏の下館跡は、高原川の右岸段丘上に位置し、江戸時代以降は巨石が水田から露頭していることから、江馬氏の館・庭園（通称「五ヶ石」）であると言われていました。それが昭和四〇年代の土地改良をきっかけとした調査によって伝承どおりであることが判明し、周辺の山城も含めて「江馬氏城館跡」として昭和五五年三月に国の史跡に指定され、復元整備を行った庭園區画は平成二九年十月に国の名勝に指定されました。

このような全国的に貴重な文化財であるとともに、飛驒市にとって重要な地域資源である江馬氏城館跡について、これまで様々な視点から継続的に調査を行ってまいりました。本資料集はその成果の一端を記録して報告するものです。

さらに近年には、江馬氏や江馬氏城館跡を地域振興の核として活用するため、地元の皆様とともに検討プロジェクトを立ち上げ、遺跡や施設の利活用について様々な方法で取り組んでいます。その一環として今回、江馬氏について分かりやすく知っていただくための歴史マンガを作成しました。本マンガは勇猛な武将として伝えられる江馬輝盛を主人公とし、父や弟との確執や周辺の勢力との相克が描かれています。江馬氏は残された史料が少ないこともあり謎が多い一族ですが、本マンガを通して戦国時代後期の生き残りをかけた様々な人間ドラマがこの地域にも確かに存在していたことが理解できるかと思います。

本資料集・漫画を通して、江馬氏という存在やその城館跡が、当市の誇る優れた歴史遺産・景勝地であることを地域の皆様とともに再認識し、遠い未来の子どもたちにも誇りや親しみのある存在となるよう、そのきっかけとなることを切に願います。

最後となりましたが、本事業に対して格別のご理解とご協力を頂きました地域の皆様をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和四年三月

飛驒市教育委員会 教育長 沖畑 康子

例言

一、本書は、令和四年（二〇二二）三月一三日（日）実施「江馬氏城館跡調査成果報告会・歴史マンガPRイベント」の資料集です。また、郷土学習のテキストとしても活用するために作成しました。

一、本書の編集・執筆の分担は以下の通りです。

○全体編集

帰家圭吾（飛驒神岡街づくり実行委員会）・大下永（飛驒市教育委員会）

○漫画パート

シナリオ・編集

帰家圭吾（飛驒神岡街づくり実行委員会）

漫画

石田らいと

題字

座主有香（ヤマノムラデザインラボ）

○資料編（執筆者）

一・四・七

大下永（飛驒市教育委員会）

二・五

三好清超（飛驒市教育委員会）

三・六

石川 蒨（飛驒市教育委員会）

一、資料編は、これまでの江馬氏城館跡に調査成果をもとに各筆者の見解によって整理を行いました。報告会の内容に沿って作成していますが、必ずしも同一ではありません。

一、年紀の標記について、基本的に昭和以降の出来事は「西暦」とし、それ以前は「和暦（西暦）」としています。

一、本書は、飛驒市委託事業「史跡江馬氏館跡公園施設活用業務（飛市教委二六号）」の一環として、飛驒神岡街づくり実行委員会が発行しました。

一、本書の作成にあたって、以下の方からご指導・ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます（五十音順、敬称略）。
江馬遺跡保存会、江馬氏城館跡整備委員会、大坪洋子、寿楽寺